

令和 4 年 度
入学者選抜学力試験問題

後 期 日 程

国 語

注 意

1. 解答は別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。
2. 解答用紙の表紙を含むすべてのページの※印欄に、受験番号・氏名を記入すること。

受験番号は、本学受験票の受験番号を記入すること。

※印欄以外の箇所には、受験番号・氏名を絶対に書かないこと。

3. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。
4. 総ページ数

問題冊子—13 ページ

(うち白紙—2 ページ)

I つぎの文章について後の問に答えよ。

(博物〔現在の理科〕の教師である「私」は、ある日、学校で生徒からカメレオンを渡された。学校には設備がないため、自分のアパートで飼うことの許可を学校から得た。生徒がカメレオンの餌として蠅はエを集めてくれた。)

蠅を持って帰ろうと……

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

6
之以上完全な輝かしい成功があらうか。

(中島敦「かめれおん日記」による)

(注)

○M・ベエカリイ——喫茶店。

○高等小学生——旧制中学校に進学しない者が学ぶ尋常小学校高等科の生徒。

○中学生——旧制中学校の生徒。中学に進学する者はエリートとみなされた。○割烹——調理を教える科目。

○目茶——道理にあわないこと。無茶。○「詩と真実」——ドイツの詩人・作家ゲーテの自伝。○帝劇——帝国劇場。

○カルメン——以下、「ボリス・ゴドノフ」までオペラの演目。○犬儒主義——社会風習や道徳・理念などを冷笑・無視する生活態度。

○sub specie aeternitatis——永遠の相のもとに。哲学者スピノザのことば。

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部①～⑤の漢字の読みをひらがなで記せ。

問三 傍線部1「精力絶倫で思い切り実用向きで、恥も外聞もなく物質的で、懷疑、羞恥、「てれる」などという気持と縁の遠い人間」とあるが、それを示す振る舞いを、二つ、端的に指摘せよ。

問四 傍線部2「影の薄い大学生よりも、潑刺たる高等小学生の方が遥かに立派だと、私も思う」とあるが、ここでは、「私」は「潑刺たる高等小学生」に対して「影の薄い大学生」をどのように考えているか、説明せよ。

問五 傍線部3「一時間ばかり彼の話を聞いてから、余り愉快ではない気持になって、蠅の詰まったマッチ箱を持って帰る」とあるが、「余り愉快ではない気持」を覚えたのはどうしてか、説明せよ。

問六 傍線部4「はじめはそれを知的装飾と考えて、困りながらも自惚れていたことがある」とあるが、これはどういうことをいつているのか、説明せよ。

問七 傍線部5「黄金なす緑色」とは、どのようなことを象徴しているか、説明せよ。

問八 傍線部6「之以上完全な輝かしい成功があるうか」について、

(a) 「成功」とはどういうことか、説明せよ。

(b) ここにはどのような「私」の思いがこめられているか、説明せよ。

II つぎの文章について後の問に答えよ。

小式部は、幼きより和歌の道、世人に勝れたり。この式部、歳十一の時、母もろともに院の御供にて住吉へ参りけり。御法施果ててのち、ここかしこ浦の景色、^a 観覧ありて、興^aさせ給ひけるに、千鳥、かもめなど波に揺られたりしてゐ、面白く思し召して、「あの浮き鳥射て参らせよ^b」と仰せ言ありければ、北面の人々、弓矢をもち、波の上におり立ちて、これをねらひけるけしき、まことに折から面白く観覧ありて、「このけしきを歌に詠むべし」と和泉式部に宣旨ありけり。式部、承りて、「みづからが歌めづらしからず。ここに、姫一人召し具しさぶらふ。¹ かれに詠ませて御覧あるべし」と申しければ、「さらば、こなたへ召し出だせ」と宣旨ありけり。さてこそ、かの姫をぞ出だしける。

さて、宣旨ありければ、姫、顔うち赤めながら、母の方へ向かひて、「ちはやぶる」と申しければ、母、「それは」とて叱りけり。君、あやしく思し召して、「いかで、さやうには諫^{いさ}むるやらん」と仰せられければ、² 「神の御事にこそ、ちはやぶるとは申すべけれ、これは、あらぬことにてさぶらふものを」と申しければ、「悪しくともいとけなき者のことなり。苦しからじ。詠ませて聞け」と仰せ言ありければ、「さらば、詠むべし」と母に許されて、

³ A ちはやぶる 神の斎垣^{いがき}に あらねども 波の上にも 鳥居立ちけり

⁴ 君をはじめ、御供の公卿、殿上人、大きに感じ給ひけり。御感のあまりに、色の御衣^{みけし}をくだされ、小式部内侍と召されけり。母の心、思ひやるべし。それより、内裏に召されて時めきけり。^c

ある時、君、御寵愛の小松、にはかに枯れければ、惜しみ思し召して、「草木も歌にはめづるならひなれば、和泉式部を召して、松の祈りの歌、詠ませて見るべし」と仰せられければ、小式部承りて、「母はただ今、田舎に侍り。はるばると申して遣はし候はんより、まづ試みに、みづから詠みて奉るべし」と奏しければ、「急ぎ詠みて奉るべし」と仰せありければ、⁵ 承りて、かの木のもとを巡りて、

B ことわりや 枯れてはいかに 姫小松^{ひめこまつ} 千代をば君に 譲ると思へば

かやうに詠じければ、この松、時の間に榮え、もとのごとくになりにつけり。君、大きに御感ありて、御衣かつけさせ給ひけり。⁶

『和歌威徳物語』による

(注) ○母——和泉式部。

○住吉——住吉大社。

○法施——法要。

○北面の人々——院を警護する武官達。

○宣旨——御命令。

○斎垣——神聖な垣。

○鳥居立ちけり——「鳥居（とりゐ）」に「鳥」が波の上に「ある」を、「立ち」に鳥が飛び「立つ」を掛ける。

○色の御衣——特定の人にだけ着用を許された色彩の衣。

問一 二重傍線部 a 「興ぜさせ給ひける」、b 「参らせよ」、c 「時めきけり」を、それぞれ現代語訳せよ。

問二 傍線部 1 について、「かれ」が指すものを明らかにして現代語訳せよ。

問三 傍線部 2 について、「これ」が指す事柄を明らかにして解釈せよ。

問四 傍線部 3 について、人々は A 歌のどのような詠み方に対して「感じ」たのか、詳しく説明せよ。

問五 傍線部 4 「母の心、思ひやるべし」とあるが、母の娘に対する心情はどのようなものであつたと考えられるか、これまでの話を踏まえて詳しく説明せよ。

問六 傍線部 5 「承りて」について、誰が誰からどのようなことを承つたのか、簡潔に記せ。

問七 B 歌を解釈せよ。

問八 傍線部 6 「君、大きに御感ありて」とあるが、「君」はどのようなことに感動したのか、B 歌をめぐる話を踏まえて詳しく説明せよ。

III

つぎの文章について後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがなを省いた箇所がある。

章献太后^ハ智聡^ガ過^ニ人^ニ。其^ノ垂簾之時、一日、泣^{キテ}語^{リテ}大臣^ニ曰^ク、「国家多

難^{ナルコト}如此^ア、向^{モシ}非¹宰執同心協力、何以至此。今山陵^ノ事畢^{セハリ}、皇親

外戚各已遷^{オノニ}転推^{モテ}恩^{セラルルニ}。惟^ダ宰執臣僚親戚無^シ有^ル恩沢。卿等可^ラ下^シ尽^ク具^{シテ}

子孫内外親族姓名^ノ来^ル上^上。当^テ例^ニ外^ニ一一^一尽^{クシテ}数^ヲ推^{セント}恩^ニ。」宰執不^レ悟^ラ、

于是^ニ尽^ク具^{シテ}三族親戚姓名^ヲ以^テ奏聞^ス。明肅得^テ之^ヲ、遂^ニ各^{オノ}画^{キテ}成^シ図^ヲ、粘^{ハル}

之^ヲ寢殿壁間^ニ。每^ニ有^ル進擬⁴、必先^ズ觀^テ図^ヲ、非^ズ兩府親戚^ノ方^{マシ}除^ス之^ヲ。

(宋・王銍『默記』による)

〔注〕○章献太后——北宋の章献明肅皇后のこと。真宗の死後、皇太后として幼い仁宗に代わつて垂簾聴政(女性による摂政)を行った。

○宰執——宰相や執政。○山陵事——先帝の陵墓への埋葬。○遷転——昇進や栄転。○一一尽数——あるだけ全部。

○三族——父方、母方、妻方などの一族。○図——系図。○進擬——皇帝の裁可を求めて大臣が上呈する人事案。

○兩府——宰相や執政が統括する中央の二つの機関。ここでは宰執を指す。○除——任官する。

- 問一 二重傍線部 a と b の文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。
- 問二 傍線部 1 を漢字ひらがなまじりで書き下せ。
- 問三 傍線部 2 を現代語訳せよ。
- 問四 傍線部 3 の結果、宰執はどうしたのか、説明せよ。
- 問五 傍線部 ①と②の「之」はそれぞれ何を指すか、説明せよ。
- 問六 傍線部 4 について、誰がどのようにしたのか、わかりやすく説明せよ。
- 問七 筆者が「智聡過人」と評した章献太后の計略のねらいは何だったと考えられるか、説明せよ。